

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和4年 7月 1日 第4号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



46歳、世の変遷とともに

校長 鮫島 弘樹

パンダ柄のテレビのことではありません。放送開始から間もない時代のテレビ放送といえば「白黒テレビ」です。その後、徐々にカラーテレビが普及していき、白黒放送は廃止されることになります。それが昭和52年(いまから46年前)、第四中学校が開校した年の出来事です。当時の四中生は、登校の道すがら「ついにウチのテレビもカラーになったよ」といった会話を交わしていたのでしょうか。

この年、1年生が青梅の御岳山へ遠足に行き、2年生は秩父のバンガローで林間学校を実施した記録が残っています。

国鉄(日本国有鉄道)がJRとして民営化された昭和62年に、開校10周年を迎えます。バブル景気と呼ばれ、日本の経済が絶好調だった時代です。大手の損害保険会社が、ゴッホの絵画「ひまわり」を53億円という破格の値で購入したことは、大きな話題となりました。

この頃、本校の生徒数はピークを迎え、現在の2倍以上の約1,200人でした。その全員が秋ヶ瀬公園に出向き、全校写生大会を実施していたそうです。

開校20周年、いまから25年ほど前になると、世の中の様相は一変しています。老舗の証券会社や大手都市銀行が経営破綻し、社会に衝撃を与えました。

音楽室(片方のみ)にようやくエアコンが設置されたのは、この翌年です。普通教室に設置されるのは、もっと後です。扇風機もなく、夏季の授業は今では考え

られないくらい、過酷な環境でした。

せっかくなので、開校30周年、平成19年も振り返ってみましょう。ちょうどいまの中学3年生が生まれた頃です。

東京ミッドタウンが開業し、第1回東京マラソンの開催もこの年です。もはや「つい最近」といった印象です。

大規模改修により、校舎が美しく甦ってから4年後、平成29年が開校40周年です。当時まだ中学3年生だった将棋の藤井聡太さんが、破竹の29連勝を飾り、一躍時の人となった年です。

今日、7月1日が本校の開校記念日です。校舎などの起工日にちなんで制定されたものです。こうして10年単位で本校の出来事や当時の世相を振り返ってみると、46年間という時の長さや、世の中の変遷(へんせん)、四中の歴史を感じずにはられません。

本校保護者の方から「私も四中の出身なんです」と伺うことが度々あります。また、長年にわたり、町内会等で本校を支えていただいている方も大勢いらっしゃいます。地域に根差し、地元の皆さんに支えられていることを実感します。

この先数十年後、いま在籍している生徒達に「四中での学びが礎(いしづえ)になっている」と振り返ってもらえるよう、しっかりと力をつけられる教育活動を進めていかなければ、と改めて心に刻むよい機会となりました。